



# **SD & Quantum**

## **V1926 Release Notes**

2024 年 11 月

1.0	進化した Macro Triggers .....	3
1.0.1	Smart Keys .....	3
1.0.2	External.....	3
1.0.3	Snapshots.....	4
1.0.4	Other .....	4
1.0.5	Advanced.....	5
1.1	OSC Macros .....	6
1.2	Macro リストの検索機能 .....	7
1.3	グローバルタップテンポ値入力 .....	7
1.4	Sound Devices 社 A20-Opto は Optocore 対応 .....	8
1.5	エラー修正.....	9

## 1.0 進化した Macro Triggers

Macro Editor が拡張され、Macro（マクロ）をトリガーするための新しいオプションが追加されました。既存のオプションはそのままに、画面上のタブセクションのレイアウトが若干変更されています。Macro はスナップショット呼び出しの一部としてトリガーすることもできます。

**注意** - 各 Macro で選択できるトリガータイプは 1 つだけです。

選択され、表示されているタブにはオレンジ色の下線が引かれ、アクティブなトリガーは緑色の●で表示されます。

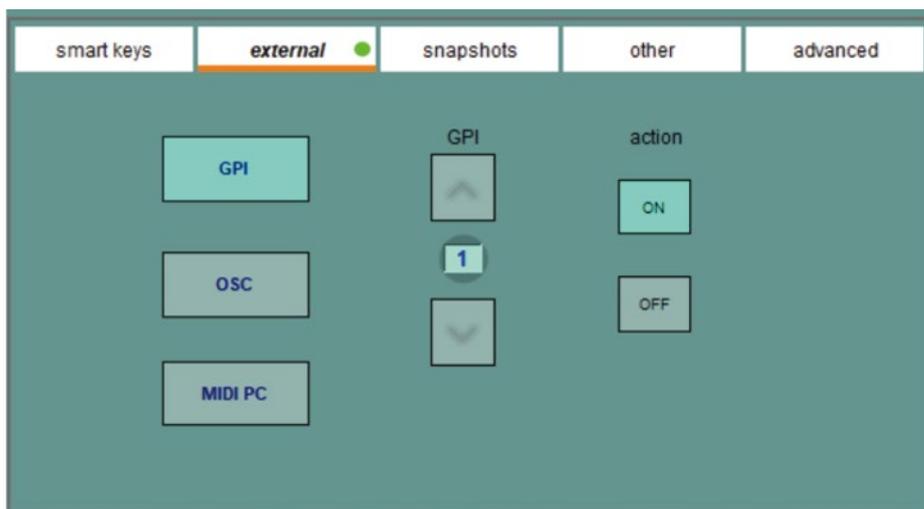
### 1.0.1 Smart Keys

**smart keys** タブでは、コンソールのワークスペースの Macro ボタンに、Macro のトリガーをアサインすることができます。関連する場所で、**Macro のバンク**番号を選択し、そのバンクの必要なボタンを選択します。Macro は、ボタンの **ON** または **OFF** アクションに割り当てられ、背景色を選択することができます



### 1.0.2 External

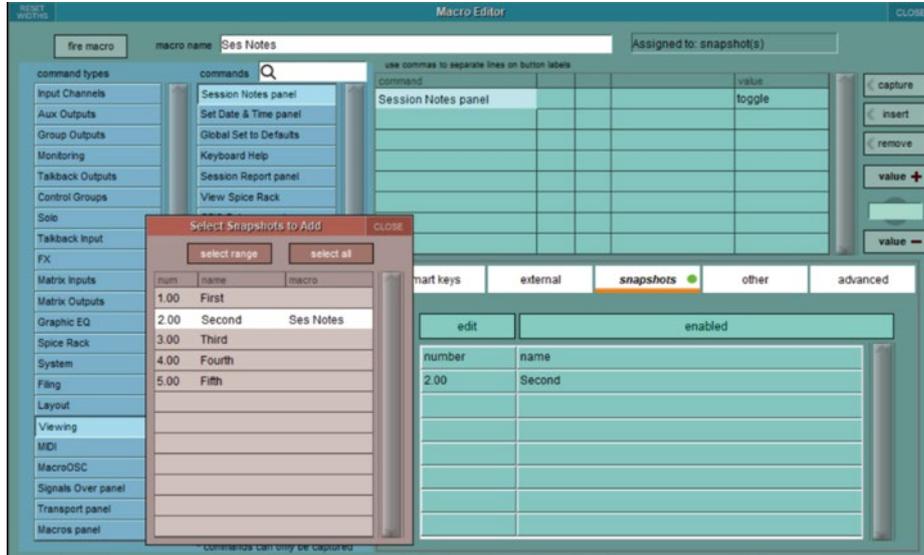
**external** タブでは、Macro のトリガーを GPI、受信 OSC コマンド、MIDI プログラム・チェンジ・メッセージにアサインすることができます。外部デバイスタイプを選択すると、その他の関連オプションが表示されます。



### 1.0.3 Snapshots

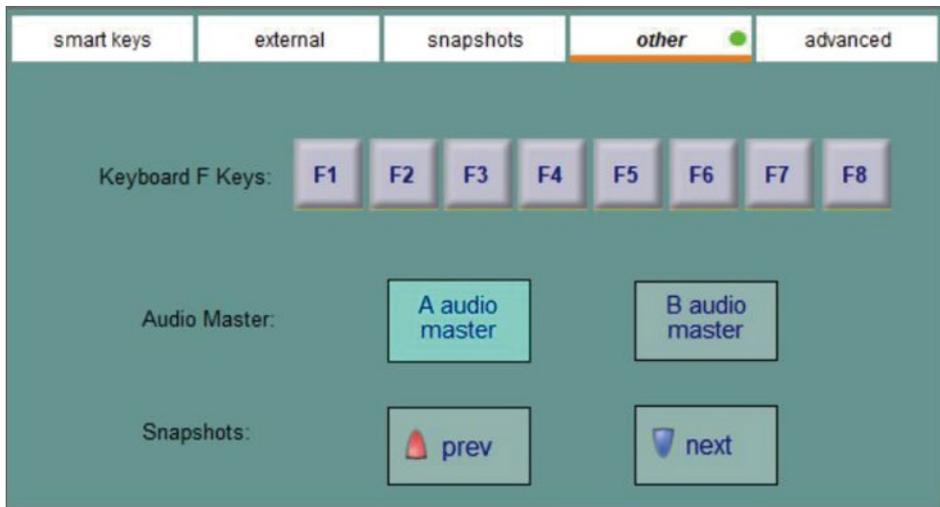
コンソールのスナップショットは、利用可能なスナップショットのリストを表示する **snapshots** タブの **edit ボタン** を押すことで、Macro のトリガーとして定義することもできます。単一または複数のスナップショットを、特定の Macro のトリガーリストに追加することができます。

**注意** - 1 つのスナップショットでは 1 つの Macro しか実行できません。もしスナップショットで 複数のマクロ機能 を同時に動かしたい場合は、必要なすべてのコマンドを含む **新しい Macro** を作成してください。



### 1.0.4 Other

**other** のタブでは、Macro トリガーを**キーボードの F キー**、コンソールの **Audio Master スイッチ A** または **B**、ワークサーフェスの **prev** および **next** スナップショットボタンに割り当てることができます。

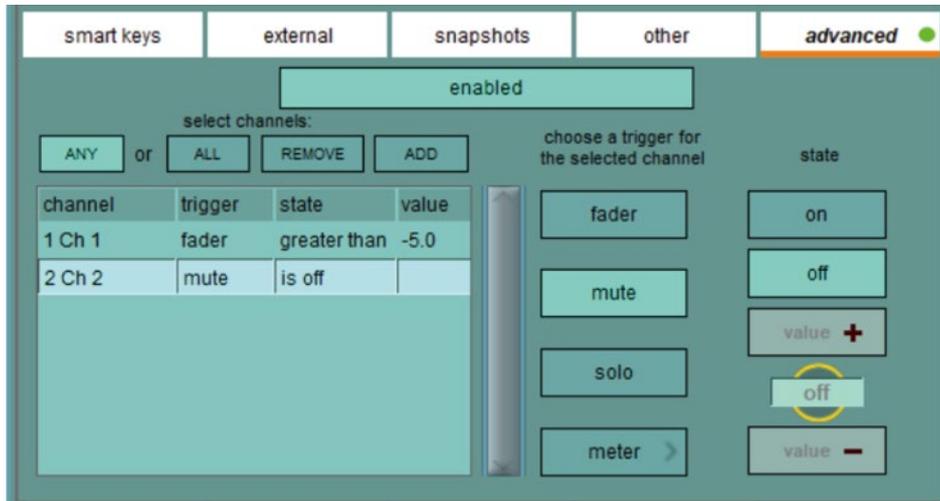


### 1.0.5 Advanced

**advanced** タブでは、特定のチャンネルコントロールやメーターの状態を Macro のトリガーとして使用することができます。

単数または複数のトリガーを 1 つまたは複数のチャンネルに指定することができます。**ADD** ボタンをタッチし、チャンネルリストから必要なチャンネルを選択します。タッチしたチャンネルはリストに追加されます。リストからチャンネルを選択し、「**REMOVE**」をタッチすることで、リストからチャンネルを削除することができます。

複数のチャンネルが選択されている場合、Macro は **ANY** または **ALL** のいずれかの条件が満たされたときにトリガーされます。



リスト内の各エントリーに必要な **trigger** と **state** を選択します。

トリガーのオプションは、**fader** レベル、**mute** 状態、**solo** 状態、**meter** レベルです。

mute と solo では、**on** または **off** の状態を選択できます。

fader については、値を設定し、その値より **value+(大きい)** か **value-(小さい)** レベルにトリガーを割り当てられます。関連するフェーダーがその値を通過すると、条件が満たされます。

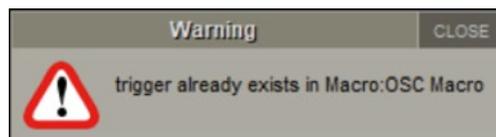
meter の場合、まず **pre-trim**、**post-trim**、**pre-fader**、**post-fader** から必要なメーターポジションを選択し、fader と同様の方法で値と状態を入力します。

メーターポジションを変更するには、現在の選択をタッチして、メーターポジションの選択肢を再度表示します。

**注意** - メーターの場合、sp は「Signal Present」の意味で、信号の入力を感知したことを表しています。

どのチャンネルでも、各 trigger と state の組み合わせは 1 回しか使用できません。

例えば、チャンネル 1 の場合、fader より値が大きい state は一度しか使用できませんが、fader より値が大きく、fader より値が小さいという組み合わせは有効です。同じチャンネルに対して、同じ trigger と state の組み合わせを 2 回入力すると、以下の警告が表示されます。



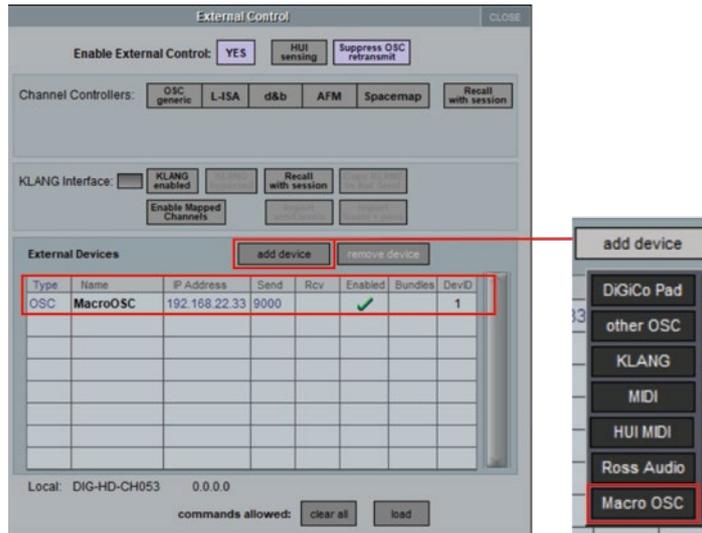
## 1.1 OSC Macros

**MacroOSC** という新しい Macro タイプがあり、Macro がコンソールのイーサネットポート経由で OSC メッセージを送信することができます。

**Master Screen > Setup > External Control** パネルで、新しい **Device Type** を使用して、OSC コマンドを受信する外部デバイスの詳細を定義します。

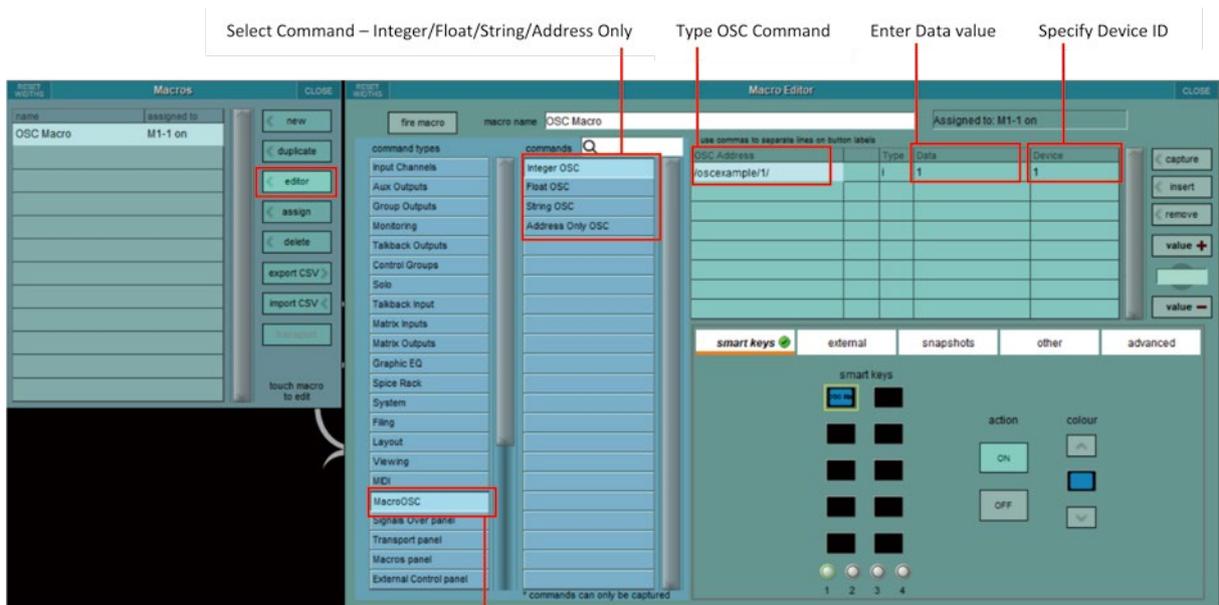
**add device** ボタンをタッチし、デバイスタイプのリストから **Macro OSC** を選択し、受信デバイスの IP アドレスと **Send port** 番号を入力します。

複数の Macro OSC デバイスを定義することができ、各デバイスにはコンソールによって自動的に割り当てられる固有の **DevID** が必要です。



**Macro Editor** には **MacroOSC** というコマンドタイプがあり、**Integer**、**Float**、**String**、**Address Only** (データ値不要) の OSC コマンドを選択できます。

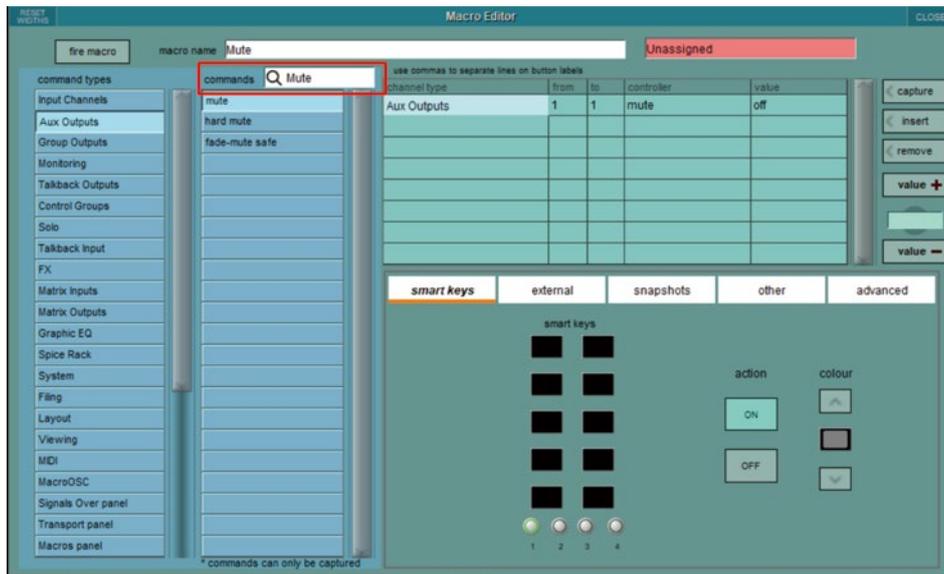
必要な **OSC command** と **data value** を定義し、**value +/-** ボタンを使用して、右側の列で Destination **Device ID** を指定します。



Select Command Type - MacroOSC

## 1.2 Macro リストの検索機能

各コマンドタイプの Macro コマンドリストは、リスト上部の**コマンド検索ボックス**にテキストを入力することで検索できるようになりました。検索は、単語の全体または部分に対して実行することができます。



## 1.3 Global Tap テンポ値入力

Global Tap 値は、Delay FX パネルの**キーボード・アイコン**をタッチし、数値を手動で入力できます。

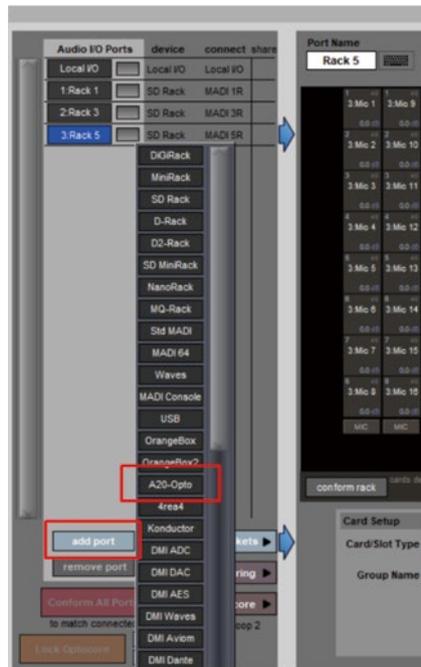


## 1.4 Sound Devices 社 A20-Opto は Optocore 対応

Sound Devices 社の A20-Opto (Optocore equipped I/O Expansion Box for A20-SuperNexus) は、既存の DiGiCo Optocore システムに追加することができます。

デバイスを接続した状態で、**Audio IO** の **Conform All Ports** コマンドを実行すると、**必要な IO** ポートとソケットが検出され、入力されます。

デバイス自体には、OPTO ID とファイバースピードを設定するために必要なローカルコンフィギュレーションがあります。



### その他の機能

- ステレオチャンネルで Klang が有効になっている場合、デフォルトの幅が 60°になりました。
- Q3 と Q2 コンソールの **Faders タブ** に**オプション**が追加され、各サーフェスの最後のバンクボタン (未入力の場合) が **Snapshot Next** ボタンに変更可能になりました。



## 1.5 エラー修正

- Master 画面ステータスパネルのインジケータが PSU と Waves Network の誤ったデータを表示することがあった。
- セッションの Restructure 後、KLANG enable ボタンが機能しない問題を修正しました。
- ミラーされたサーフェスで、ソロバス・フェーダーがオフに設定されなかった。
- d&b Soundscape コントロールが一方向にしか動作しなかった。
- Audio IO に DMI AVB カードがある場合、セッションを Quantum 以外のコンソールに変換すると、Access violation が発生することがあった。
- オフラインマウスホイールコントロールが FX で動作しなかった。
- SD5 と SD7 のセッションファイルをそれぞれ Q5 と Q7 に直接ロードできなかった。
- ミラーリングコンソールで使用、コントロールしているほうでないマスターフェーダーを動かすと、コンソールのロックが解除されたときにオーディオレベルが変わってしまう。
- キュー・リコールによってチャンネルの CG アサインが変更された場合、CG ミュートがチャンネルに正しく適用されなかった。
- オプションパネルが、最後に選択されたタブを呼び出さなかった。
- Q2 で、overview 画面の DiGiCo ロゴがトリミングされていた。
- Q7 のメーターブリッジに表示された Delay 値がずれていた。



ヒビノインターサウンド株式会社

〒105-0022 東京都港区海岸2-7-70 TEL: 03-5419-1560 FAX: 03-5419-1563

E-mail: [info@hibino-intersound.co.jp](mailto:info@hibino-intersound.co.jp) <https://www.hibino-intersound.co.jp/>

- 商品写真やイラストは、実際の商品と一部異なる場合があります。
- 掲載内容は発行時のもので、予告なく変更されることがあります。変更により発生したいかなる損害に対しても、弊社は責任を負いかねます。
- 記載されている商品名、会社名等は各社の登録商標、または商標です。